

大腿膝窩動脈病変に対する血管内治療後に発症した急性下肢虚血の 長期予後に関する後ろ向き観察研究

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

本研究の目的は、下肢血管内治療術（EVT: endovascular therapy）後に発症した急性下肢虚血（ALI: acute limb ischemia）の病態、治療、予後について検討することです。各施設で収集した情報を統合し、ALI に対する治療後の1年治療成績を後ろ向きに評価します。

【対象】

2011年7月から2021年12月に大腿膝窩動脈病変に対してEVTを施行後のALIを発症した患者さんと、同時期に血栓・塞栓性の新規ALIを発症した患者さん

【情報の利用目的及び利用方法】

電子カルテにて調査を行い、データを収集します。

【調査項目】

<評価項目>

-ALI 治療後12カ月時点での、1) 死亡、2) 下肢大切断率（大切断の定義；足関節より中枢側での切断）、3) 主要下肢有害事象（MALE [major adverse limb event]: 外科的血行再建術移行、急性血栓性閉塞や大切断として定義）4) 標的病変血行再建率（Target lesion revascularization）、5) 標的血管再血行再建率（Target vessel revascularization）、6) 外科的血行再建術移行率開存率、7) 急性血栓性再閉塞、8) 開存率

<調査項目>

-ALI 発症前初回EVT時の病変背景、血管内治療手技背景
-ALI 発症時の入院時 患者・患肢・病変・治療手技背景、投薬内容

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を

特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【調査対象期間】

2011年7月1日から2021年12月31日

【利用する者の範囲】

関西労災病院 循環器内科 飯田修、中尾匠、岡本慎、石原隆行、南都清範、辻村卓也、
畑陽介、豊島拓、東野奈生子、真野敏昭

【試料・情報の管理について責任を有する者】

関西労災病院 循環器内科 中尾 匠

【研究期間】

実施許可日から2025年12月31日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【研究共同機関】

関西労災病院
松山赤十字病院
済生会福岡総合病院
岸和田徳洲会病院
東京ベイ・浦安市川医療センター
札幌心臓血管クリニック
湘南鎌倉総合病院
宮崎市郡医師会病院

【研究代表者】【当院の研究責任者】

飯田 修

関西労災病院 循環器内科

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘3-1-69

TEL: 06-6416-1221 (代表)

FAX: 06-6419-1870 (代表)

E-mail: iida.osa@gmail.com

【研究事務局】

中尾 匠

関西労災病院 循環器内科

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69

TEL: 06-6416-1221 (代表)

FAX: 06-6419-1870 (代表)

E-mail : shotwins0601@gmail.com

【当院連絡先】

末松 延裕

福岡県済生会福岡総合病院 循環器内科

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1-3-46

TEL : 092-771-8151 (代表)